

# 「体内の歪み」を生薬が治す！

頭痛、めまい、耳鳴り、動悸、息切れといった症状に襲われて病院で検査したものの、これといった異常が見つからなかった。当然、原因もわからないまま…。こうした症例は「自律神経失調症」と呼ばれている。

例えば、鹿児島県に住む会社員の場合。

「左後頭部のあたりで、"キーン、キーン"と、うるさいほどの耳鳴りがするようになったんです。医者に行っても『異常なし』と言われて困りました」

仕事は営業職で、不況のさなか、毎日が残業のうえ、パソコンのディスプレイを見つめる時間も長かった。そこで知人に勧められた薬をのみ始めたところ、

「なんと3、4日で耳鳴りが治まったんです。重かった肩も軽くなった。今では仕事も快調です」

この薬は「かせだちのくすり しんめいとう加世田血脳薬・神命湯」と言い、鹿児島大浦町で400年余りの歴史を持つ家伝薬である。南九州一円では、広く親しまれている。もう1人、めまげや耳鳴りを起こす

メニエル病に悩んでいた会社員は、こう話す。

「5、6年ほど前から、ひどくふらつくようになった。耳鼻科で検査してもらったら、ストレスが原因の『メニエル病』と診断されました。処方された薬をのんだんですが、よくならなかった。ふと故郷のこの薬を思い出して、取り寄せて試してみたんです。」

毎日が続けているうちに少しずつ回復して、今では ふうつき も日常生活をするうえで支障と言えなくなりました。3泊くらいの旅行もできるようになった」

この薬は11種の生薬から成っている。シヤクヤク、カツコン、トウキ、ブクリヨウ、ジオウなど、どれも古くから信頼を得ているものだ。

製造元は「青木流芳院」。1605年に青木源助がこの地で医業を始め、施薬を行ったのが創業とされる。青木家18代目当主である浩太郎氏

(40)が、この薬の効力を説明する。

「東洋医学では、人間の体の中には『血』（体内の栄養物質全般）と、『気』（身体機能を支えるエネルギー）があり、互いに作用し合いながら流れていると考えられています。流れがスムーズでないと、人間は不調になるのです。」

この薬は、生薬の力で『血』と『気』のバランスを取り戻し、滞った血の巡りを正します。そのため、病院で行われる臨床検査で異常値が出にくい自律神経失調症や、打ち身、軽いムチ打ち症、原因不明の不眠症などに効果を発揮するのです」

現代医学の弱点をカバーする、すぐれた薬と言える。

効能は神経衰弱、不眠症、めまい、肩凝り、冷え症、のぼせなど。

1包分を水270ミリリットルに溶かし、これを90ミリリットルになるまで煎じたものを食前に服用する。1日3回服用。

30包入り/3000円(税込み)

問い合わせは、青木流芳院

0993・62・2001

まで。

(医療ジャーナリスト/笹川伸雄)